

陶町歴史ロマン 8



6、続 戦国猿爪の統治者

(3) 猿爪の統治者

水野白舟著「陶町史考」によると遠山七家のひとつ、串原遠山家の遠山経景が武田による串原城落城後、明知遠山氏の庇護を受け猿爪天神社に居を構え猿爪、吉良見の統治者であったのではと推察されています。その理由は

A、天神社に名のある人にしか許されない宝篋印塔があった。(現在は宝昌寺)
名のある人とは経景ではないか。他に考えられる人がいない。

B、天神社の位置は、当時の明知陣屋から連絡道(明智～野原～阿妻～猿爪～田代～原～吉良見)の道路筋にあたる。また、阿妻道から折れれば吉良見も近い。

当時は、まだ中馬街道も整備されておらず、猿爪からは三河へ抜ける阿妻道は主要道路であった。(明知から江戸への道は阿妻を通り、三河から東海道を江戸へ行くのが一般的)

C、様々な書にあるように落合砦(千畳敷)に居を構えるのは、明智遠山氏に近すぎて謀反を疑われる。一旦は構えても早い段階で居を移したのではないか。天神社は学問の神様で謀反とは程遠い。

以下は私の私小説的考察です。

串原城落城が上村の戦い時ですから1572年です。遠山経景が明智遠山氏に身を寄せたのはそれ以降となります。そして、猿爪、吉良見を拝領したのはいつかを考えてみたいと思います。そのため、当時の明智遠山家を調べてみます。

上村の戦いで東濃勢は手痛い敗北を喫し、明智遠山家でも領主の遠山景行、その長子景玄も失ってしまいました。明智遠山家は景玄の遺児・一行が叔父利景(景行の二男)補佐を受けながら跡を継ぎました。明知城は天正2年(1574年)武田勝頼に攻められ落城するも、1575年長篠の戦いで武田方が織田信長に壊滅的敗北を喫し、東濃でも同年11月に織田信長の援助を受けて遠山氏が、武田方より明知城を奪還しています。しかしながら、天正10年(1582年)本能寺の変後、羽柴秀吉についた森長可が東美濃を制圧、これをみて利景は徳川家康を頼り三河足助城へ逃れています。その後、小牧・長久手の戦いのなかで一時的に利景は明知城を奪回したが、和睦により森氏に返還されてしまった。明知城を追われた一行・利景らは家康を頼って甲府に逃れていた。天正16年(1586年)冬、利景の養子となっていた一行は、信州から駿府へ向かう途中、甲駿国境の平沢峠で凍死し、これによって景玄の系統は断絶してしまいました。

慶長5年(1600年)の関ヶ原の合戦では、森氏から代わって明知城を領した岩村城主田丸直昌が西軍についたため、利景は田丸方の守る明知城を落城させ、その功で戦後に旧領回復を成し遂げて6531石の旗本となった。

以上が当時の明智遠山家の状況です。

つまり、明智遠山家が明智を支配しているのは、1575年～1582年、1600年～となります。したがって、遠山利景が経景に吉良見村・猿爪村500石を与えたのはその間ということですが、遠山利景が名実とも明智遠山家の総領となるのは、一行の死後(1586年)ですから、1600年以降と考えるのが適切かと思えます。

遠山利景が明知領主として明知領安定化を図れるのは1600年以降ですから、諸々の残務整理を考慮すると1605年頃ではなかったかと推測します。

経景は1572年明智遠山氏に身を寄せた後、献身的努力をしたと思われます。1574年の武田勢による明智城攻撃（落城）、1575年の明智城奪還、1582年の森氏との戦い、1600年の関ヶ原の戦い（東濃版）のいずれか、または全部で功績があったのでしょう。

私が推察するに、1574年の武田勢による明智城攻撃（落城）の時、織田信長、信忠親子が東濃を守るため出陣していますから、地元の明智遠山氏は総力を挙げて必死で戦ったことでしょう。経景も遠山勢の一員として父親を殺された恨みを晴らすべく必死で戦ったことでしょう。しかし、残念ながら負けてしまい利景は三河へ逃れてしまいます。

その時、経景は地元で機会を待つことになったのではと思います。吉良見の雲祥寺のある洞（当時まだ雲祥寺はありません）の山深くで、です。この洞の小字名を「富がえり」といいます。この地は、西へひと山越えれば猿爪村中の草、北へひと山越えれば猿爪村井の平です。経景にしたがって地元で潜んだのは数人しかいませんから、来たるべき



戦に備えて兵士を養成する必要もありました。経景は身分を隠すため「俺は平家の侍大将の末裔」と名乗ったのではないかと思います。そして、明知城からは山で隠れる猿爪村井の平の金蛇入池辺りの地元百姓を軍事訓練したのではと思います。地元の百姓には「手柄によっては武士に取り立てる。」とでも言って誘ったのではと思います。

そして1575年の明知城奪還、1582年の森氏との戦い、1600年の関ヶ原の戦い（東濃では森方攻め）で戦功をあげました。猿爪井の平の金蛇入池の隣の洞の小字名は「じんて」です。私は「陣出」と書くのではと思います。地元の景山さんに聞くと「神出」じゃないのか？考えたことはない。「神田」かもしれん」ということでしたが…。

関ヶ原の戦い後、明知領主となった遠山利景は 1605 年頃に経景の功績をたたえ、落合砦



(千畳敷) と吉良見村・猿爪村 500 石を与えました。雲祥寺奥の洞は、景経にとって忍耐で富(領地)が返ってきた出発地となったのです。富がえりの小字名はここから来ているのではと思います。

吉良見村・猿爪村を拝領した経景でしたが、500 石では一緒に戦った同士を全て武士に取り立てることはできません。そこで

郷士(半分武士、半分百姓、後にはほぼ百姓)として、城主遠山利景の景の字(利景でなくても、遠山家では通し名として「景」を用いている)、遠山の山の字を与え「景山」姓を与えました。現在も猿爪東町に多数ある景山姓の誕生です。そして景山の人々は景経を氏神にして「影清神社」として祀りました。この神社が平家の侍大将「影清」の民話につながります。

「影清」としたのは、直接的に「景」の字を使うことをためらったので、「景」にさんづくりを加え「影」(かげさん)とし、百姓に大事な水に苦勞しないように「清」を加えました。この地は分水嶺で、ひと山越えた雲祥寺側は明智川で矢作川となり、当地側は猿爪川の源流なので清流であることは間違いありません。または、利景さんの景さん(呼称)を「影」(かげさん)としたかもしれません。

「陶町史考」によりますと明治元年の景山姓は 8 軒ということですが、江戸時代、分家は簡単には認められませんから、当初は 5 軒程度だったのでは?と思います。

また経景は、拝領後も明智遠山家による封建的支配に尽力しました。具体的にはわかりませんが、想定例をあげると、景山の人たちは江戸時代の苦しい時、田植えが終わると信州方面まで物売りに出かけたが、稲刈り時には必ず帰還したそうです。遠山家への忠誠心、家への執着も高かったということは経景の教育だったかもしれません。



影清神社から見た田代山
田代山経由の狼煙台としても使われていたかもしれません

また、経景は吉良見雲祥寺の開基が1610年ですから雲祥寺の建立にも関係したかと思えます。

雲祥寺には「七軒家の里の寺」という逸話があるそうです。

建武年間（1334年）以来7軒の農家で貧しく暮らしている里がありました。1軒の庵があり一人の尼さんが住んでいました。

江戸時代に入り明知の遠山利景公が鷹狩りの際、庵に寄られ内を眺めていると位牌が目についた。遠山の家紋があり先代景行公の戒名まで書いてある。「これは先代の位牌、誰の許しを受けて祀ったか。ありのまま話せ。」

尼さんは深々と頭を下げ「私ども領内に住む者は大恩ある領主さまを片時も忘れたことはありません。仏道に仕える身、せめてお位牌でも祀りて日夜勤めております。」

「左様か、殊勝な心がけである。ならば今後とも勤めてくれよ。」



雲祥寺は寺領があり、住職には家紋と遠山姓が許されたといわれますからその厚遇が伺えます。

猿爪宝昌寺の庫裏裏に慶長の石積み(1610年頃)が現存しています。宝昌寺の建立は1635年ですから、まだ宝昌寺はありません。

私は、この位置に経景の猿爪屋敷(出張所みたいなもの)があったのではと推測します。この位置は山一つ越えれば吉良見雲祥寺ですし、また、なによりも阿妻に通じる街道があります。明知の殿様は江戸への行き帰りに明知～阿妻～三河～東海道を利用していたから、その送迎に阿妻に近いということは重要なことだったので。

水野白秋先生は、天神社にあった宝篋印塔は経景の墓では？と推測されていますが、あの宝篋印塔は室町中期か末期のもののようなようですから、やはり天神社創建（1547年）に関してのもののようなようです。

しかし、徳川幕府による農村支配が確立すると、各村を村役三代で運営するようになり中間の領主は不要となります。経景から11代目の正景は「永田」と改姓し、以降、代々明知陣屋の家老として幕末まで旗本遠山明智家を支え続けたそうです。

(4) 陶（猿爪・水上・大川）の石高

太閤検地（天正年間）によると

猿爪村…240石、水上村…173石、大川村…176石

ちなみに近くの村の石高は

山岡 原村…223石、田代村…97石、釜屋村…456石、久保原村…540石、

上手向村…708石、下手向村…383石、馬場山田村…1656石

明智 明智村…684石、吉良見村…161石、野志村…214石

（この石高は江戸時代を通じ、幕末まで殆ど変わっていない）

上記を眺めてみると、陶の三村が小さな小さな村であったことが分かります。飯高さん萬勝寺の地元である馬場山田、上手向、下手向が非常に大きな石高を誇っています。やはり、淡気の時代から萬勝寺界隈が、恵南地方の農業の中心地だったということでしょうか。



宝昌寺 慶長の石積み



現在は宝昌寺にある宝篋印塔